

15. インティプカ CDT

日時	2012年6月16日 14:00～15:00
場所	マングローブツアー（インティプカ）
協力者	ADESTI (Asocioacion de Desarrollo Turistico de Intipuca)メンバー Ms. Elsy Guevara, CDT インティプカ代表 Mr. Alejandro Benjamín Argocta Mr. Luís Alberto Blanco Basque Ms. María Eugenia Cabrera Hernández Ms. Yesenia Beatriz Pérez Delcid Ms. Patricia Marisol Torres Ms. Ana Lucia Villatoro Aguila Mr. Francisco Antonio Villatoro Ms. Sandra Elizabeth Méndez Mr. José Cesar Amaya Mr. Noel Antonio Rivera
出席者	ビンコーインターナショナル(株) 福田（評価分析） 三島（通訳）

【マングローブツアーについて】

- 本プロジェクトにより進呈された10台のカヤックを使用。カヤックの置き場所は海辺の近くの小屋。
- ガイドはADESTIのメンバーが担当している。通常は3時間ほどのツアーだが、今回は1時間のツアーとしてくれた。ガイドの人とペアになり、カヤックをこぐ。現在まだマングローブツアーを開発中。

【ADESTIについて】

- (ADESTIを紹介するパンフレットを資料としてもらった) →この紹介パンフレットはADESTIのメンバーで作成した。
- ADESTIのシンボルマークは、ADESTIのメンバーとデザイナーで話し合い、インティプカにある自然資源（太陽、山、マングローブ、海）を表現したシンボルに決定した。
- CDTとして発足したのは2011年5月20日。その後、CONAMPYEの支援で法人化→ADESTIとして登録されている。

- 現在のメンバーは 20 人。会議の頻度は月に 2 回であるが、必要に応じてもっと多く集まることもある。例えば、法人化に向けて定款を作成するときは 4 日間連続で集まったこともある。
- 現在は非営利団体であるが、将来的には利益を得る団体にしたい。
- ADESTI の組織としての強みは自然資源と人的資源が豊かなところ。弱みは資金が足りないこと。現在の活動資金はツアーによる収入が主である。そこから、カヤックを保管する小屋の賃貸料（35 ドル/月）を支払っている。

【パイロット・プロジェクトによるインパクト】

- 組織として仕事や活動することを学ぶことができた。
- 実際に観光客が増えた。例えば、今年 3 月にもプエルトリコからの観光客をアテンドしたり、今回もアメリカの海軍学校の観光客 21 人がツアーに参加した。

16. (プロジェクト専門家) アレハンドラ・ソリージャ氏

日時	2012 年 6 月 17 日 11:00～12:30
場所	Comfort Inn La Union
協力者	Ms. Alejandra Zorilla (プロジェクト専門家) ※前回の続き
出席者	ビンコーインターナショナル(株) 福田 (評価分析) 三島 (通訳)

【観光地図プロジェクト】

- 3～4 回ワークショップを実施して、CDT と観光地図を作成した。CDT が法的には存在していたが、実質は冬眠状態であった。しかし、観光地図の作成を通して、少しずつ活動を再開していき、その段階で様々な問題が明らかになった。
- CAT ラウニオンから正式なレターをだし、第 1 回目のワークショップに召集した。この時、各 CDT のルールをはっきりすることから始めた。また、出席者の確認、ワークショップの目的も具体的にした。観光地図のおかげで、地域の独自性を導き出すことが重要なことであることを伝えた。その後、参加者が模造紙に自分たちの地域の地図を作成した。
- その地図をもとに、区画を作り、観光客が来そうなエリア、観光客に避けてほしいエリアなどを明確にした。地域の人が自分たちの街の情報を把握し、観光客にきちんと提供できるようにする。
- 大きな街では対象を変えてワークショップを何回かした（ラウニオン 3 回、サンタロサ 4 回）。それは CDT メンバーだけでなく、零細企業や教会関係者も対象とした。

- ワークショップのファシリテーターは CONAMPYE から推薦された 3 人が実施。アレハンドラさんがファシリテーターの仕方を教えた。
- 地図作成を通して、CDT は 2 つの意味で強化されたと思う。①ほかの人と連携する（チームで活動すること）②全体像を把握し、その中でどのように自分たちの立ち位置がわかるようになった。

【島めぐりツアー】

- 安全対策、ツアーの進め方などを CDT と共有しながら、そのマニュアルを作成中。例えば、夜釣りツアーに関しては 7 名のメンバーと 9 回以上集まって、マニュアルを作成している。少しずつであるが、CDT メンバーや地域住民が自主的に情報収集などを行うようになった。
- パノラマツアー（4 時間ツアーと終日ツアー）と釣りツアーを開発中である。
- 多くの男性がアメリカへ移住しているため、女性が漁業に従事している（ほとんどがシングルマザー）。なので、サンサルバドルに住むシングルマザーの家族との交流イベントのようなものがないか（例えば、サンサルバドルの人たちがラウニオンに来て、釣りを習うなど）を CORSATUR が検討中。
- メアングーラはエルサルバドル内でも、海外送金が多い。

【地域 CDT】

- 地域 CDT 運営マニュアルを作成中。これは各 CDT にも応用できる。
- 地域 CDT では HP でイベントの情報や会議の議事録を公開している。将来的には、運営費用（予算と支出）なども公開するようにする。HP 作成もアレハンドラさんが主導で始めたものだが、現在は地域 CDT メンバーが自主的に議事録も公開するようになった。

17. CDT ラウニオン

日時	2012 年 6 月 18 日 9:30～
場所	CAT La Union
協力者	CDT ラウニオンメンバー Mr. Luis Alberto Díaz, CDT ラウニオン代表 Mr. Hector Flores, CDT ラウニオン役員 Mr. Gerald Doucet, CDT ラウニオン会計 Mr. Carlos Azmitia, CDT ラウニオン書記官 Ms.Sonia Aguilera, CDT ラウニオン役員
出席者	ピンコーインターナショナル(株) 福田（評価分析） 三島（通訳）

【CDT ラウニオンについて】

- 2011年6月に集まり始め、9月に正式発足。MITUR/CORSATURの主導で、いろいろな経営者を招集して、発足した。現在は法人化手続き中。現在のメンバーは18人（はじめは12人）。
- これまでの活動は、ラウニオンの守護聖人を祝うフェアを実施し、山車のパレードも行った。8月のバケーションの時も、fund-raisingのための活動を行い、その一つとして旧駅舎（通称エスタシオン）の中に期間限定の博物館を作った。
- 資金調達の方法はスピードくじによる収入。これまでに、150～200ドルの収入があった。各メンバーはこのくじを売る義務がある。
- 資金調達のほかの方法として、毎年エルサルバドルで実施しているミスティーンやミスメソアメリカのイベントのひとつがラウニオンで行われるとき、CDT ラウニオンがこのイベントを組織している（今年の7月も実施予定）。
- 市長の変更によるメンバー変更は今のところない。

【パイロット・プロジェクトについて】

- 3つのプロジェクトをCDT役員全員が担当している。
- まずワークショップで、観光として紹介できそうな場所を選定し、観光地図に載せる場所を決定した。島の人、漁民などが情報提供者として観光地図の作成に参加した。コンチャグィータ、メアングーラ、サカティージョの島でもワークショップを行った（CONAMPYEやCEDEMYPEからの支援もあった）。全員で集まったのが1回、各島へ2回ほど訪問した。
- 島巡りツアーの模擬ツアーも実施した。
- プロジェクトチームとはコミュニケーションもとれているし、一緒に活動している。問題があるならば、私たちの方にあると思う（時間や期日を守れなかったり、すぐに怠けてしまうので）。

【プロジェクトによるインパクト】

- 受けた研修がとても有意義だった。必要な研修をしてくれたと思う。
- エルサルバドルは、責任を回避する文化があるけれども、日本の専門家から責任を回避しないことを学んだ。
- グアテマラへの研修旅行を通して、多くの地域住民が参加したことで、自分たちにもポテンシャルがあることに気づくことができた。
- エルサルバドル西部にあるスチトトという観光地への研修も有意義だった。スチトトは小さい街だが、治安もよく、街をあげて観光に取り組んでいる。

- JICA による研修旅行や研修に参加したことで、旧駅舎（エスタシオン）を観光地として開発しようと思った。このことがきっかけで、毎週土曜日の夕方、旧駅舎で民芸品や食べ物を売るフェアを実施するようになった。
- 先週（6月12日～15日）、アメリカ海事学校の船が来たときも、エスタシオンでフェアを実施し、また、観光ツアーも行った。→このとき、観光客が7万USドルくらい落ちたと思う。多くの人が観光による経済効果を実感したと思う。
- 経済的な恩恵は民芸品を売っている人が大きく受けている。

【今後の展望】

- 毎週土曜日のフェア、3ヶ月ごとにイベントも実施していく（今年は7月のミスティーン、8月にはエルサルバドル全体の聖人のフェアがある）。
- 観光省に観光客の呼び込みをお願いしていきたいと思う。政府としてのもっと関与して欲しい。
- 市役所の関与について：清掃・照明・治安については最低限してくれたが、それ以上のことはなかった。

18. （プロジェクト専門家）カルロス・エスピノサ氏

日時	2012年6月19日 11:00～12:00
場所	CAT La Union
協力者	Mr. Carlos Espinosa（プロジェクト・アシスタント）
出席者	ビンコーインターナショナル(株) 福田（評価分析） 三島（通訳）

【担当業務】

- CDT インティプカ（以下、ADESTI）の強化とマングローブツアーのパイロット・プロジェクトを担当。また、観光環境教育のパイロット・プロジェクトも手伝っている。研修旅行のコーディネートを手伝うこともある。

【マングローブツアーについて】

- マングローブツアーのCPはADESTIである（資金を出さなくても、彼らの時間を提供する：活動に参加するため）。ツアーの行程はADESTIの提案で決定した。例えば、見晴らしのいい場所をADESTIのメンバーがしても、観光客が歩けるような道があるか、距離は遠くないかなどを実際に体験して、アドバイスした。
- 3種類のツアーがある（初心者向け：2.5時間コース、中級者向け：3.5時間、上級者向け：

4.5 時間) 18 ドル～25 ドル (例えば、ラウニオンからバスで行く場合は 25 ドル。自力で現地に行く場合は 15 ドル。サンサルバドルからのツアーは 40 ドル、ランチ付き)。ツアー後はアンケートを実施し、満足度をチェックする (→現在は、まだカルロスさんが行っている。パソコンやインターネットを使えないメンバーもまだいるので。これらの研修も実施する予定)。

- ツアー客が食事をすれば 1 ドル、飲み物 50 セントのコミッションが入る。
- 現在は協同組合を組織している段階。ADESTI は地域開発を担当する非営利団体。ツアーによるビジネスができるようにするため、組合 (cooperativa) となるようにしている。ツアーのオペレーションを担当する。
- 協同組合のビジネスプランを作成する段階 (CONAYPE がコンサルを送ってくれる)。この段階の前に、マングローブツアーにかかる支出状況 (おやつ代、カヤックの維持費用など) を把握する必要があった。
- CDT インティプカは観光省の促進により発足したのだと思う。発足当時は市長が議長・副議長になることを促していたため、市役所で CDT は動いていた。
- 新しい市長になって、一時期ストップ (カヌーは前の市長が購入したし、そこで働いている人は前の市長による私的なビジネスだという噂があったため、新市長はプロジェクトをしなくなかった)。CORSATUR とプロジェクト活動の説明をし、前の市長の業績ではないと説得した。→現在は ADESTI のメンバーである (しかし、cooperativa にはならない)。

【観光環境教育について】

- パサキナの CDT は事実上、市役所が作った。まだ、政治のための仕事だと思っている。メンバーは政党的な動きをしている (例えば、同じ政党を指示していない人はメンバーになれないし、会議も収集しないこともある)。→学校でのキックオフイベント前にも CDT 内でもめ事があり、イベントの手伝いをせずに、ゲスト参加のような形になってしまった。
- MEGATEC の学生は教材や資料を作成している。この作成に CDT メンバーも参加している。
- (政治的な CDT について) MITUR にも関与してもらい、CDT の目的などをもう一度説明してもらおうことが大事。

19. コンチャグア市役所

日時	2012 年 6 月 18 日 (月) 14:00～14:45
場所	コンチャグア市役所
協力者	Mr. Héctor Ulises P. 市議会議員 Ms. Elsi Yalui H. 市議会議員

	Mr. Marcos Stilio Ordiz, 市議会議員
出席者	ビンコーインターナショナル(株) 福田 (評価分析) 三島 (通訳)

【観光開発ニーズについて】

- コンチャグアは観光地となる自然資源がおおいため、観光開発のニーズがあると思う。たとえば、ビーチや火山など。火山からはフォンセカ湾を見渡せる見晴台がある。また、ククトコ港が開港されれば、貨物船や客船が多く訪れることになると思う。コンチャグアの街そのものも観光地としてのポテンシャルはある。1月と6月に祭り:feria を開催しており、観光客も訪れている。
- 具体的な観光開発としてはホテルやレストランを増やす、海を利用した娯楽（水上スキとか）、火山まで行く道路の整備などをしていきたい。
- 観光開発の課題は、インフラがない（火山の見晴台への道やホテルが少ない）、治安が悪いなど（→だから、JICA にインフラ支援をしてほしい。）また、観光客のアテンションをもっと惹きつけることも重要だと思う。そうでないと、サンサルバドルや近隣のサンミゲルにしか足を運ばない。

【CDTについて】

- CDT が活発に活動していることは知っている。市役所のなかにある Comision de Turistica があり、連携している。観光地図と観光標識の作成にも参加した（→観光地図に関する進捗を聞かれたので、現在印刷中で近々印刷が完了することを伝えた。

20. CDT コンチャグア

日時	2012年6月18日（月）16:00~17:00
場所	Restaurante Villa Central
協力者	Mr. Alexander Romero Saravia, CDT コンチャグア代表 Mr. José Cecilio Ruiz Mr. Vincente Zelayandía, Mr. Uan Auteportaú Torres, Ms. Blanca Flores, Ms. Silvia Efaría de Zelayandía, Mr. José Norberto Barcía Z., Mr. Wilian Yovany Morale,

出席者	ビンコーインターナショナル(株) 福田 (評価分析) 三島 (通訳)
-----	---------------------------------------

【コンチャグア CDT について】

- 現在のメンバー数は 25 人で、ほとんどのメンバーが設立時のオリジナルメンバー。もともと、MITUR/CORSATUR が CDT 設立のためにメンバーを召集した。設立時は 30 人ほどのメンバーがいた。
- CDT 設立 (2007 年) より前に、漁業組合として地域開発のために活動していた。コンチャグアは海岸地域もあり、観光客が訪れることもあったため、観光関連の活動も行っていた (海岸掃除や漁師による釣り指導? など)。
- 現在、CDT 会議は 2 週間ごとに実施している。会議に必要な雑費 (場所はメンバー経営のレストランを利用) はメンバーが負担している。
- グアテマラでの研修はすばらしく、私たちにとって“良い学校 (Buena escuela) であった。この研修を通して、私たちのビジョンができたと思う。

【パイロット・プロジェクトについて】

- 観光地図の作成は CDT メンバーほか、地域の人も参加し、作業を分担した。コンチャグアは海岸地域と市街・火山地域の 2 つに分かれて、作業を行った。作業のために、2 つの地域合同で 4 回集合し、それぞれの地域では 2 回集合した。今後、地域 CDT とも協力しながら、地図の再版や情報のアップデートをしていく。
- 観光標識の作成には 2 回ほど会合を開いた。観光地図の作業とも関連づけた。現在、標識を作成中で、9 月ごろに完成し、設置する。すでに、市役所から設置許可を得ている。JICA は標識作成の費用を負担してくれるので、CDT は設置に必要な手続きや労働力を負担するつもりである。
- パイロット・プロジェクトに参加して、観光地としての方向性を知ることができた。また、メンバーそれぞれが様々な意見を持っており、意見を調整することもできるようになった。

【市役所との連携について】

- 市役所に comision de turistica はあるが、十分に機能していない。市役所はどうしても政治的な観点でしか見ない傾向がある。つい先日、市長と会議があり、市に対して街の安全や清掃の強化をお願いした。これからも、市役所とは協力していく考えは変わらない。

21. CAT ラウニオン管轄 CDT 全体会議

日時	2012 年 6 月 19 日 (火) 14:00~16:00
----	---------------------------------

場所	ラウニオン旧駅舎（エスタシオン）
協力者	<p>(地域 CDT)</p> <p>Mr. Raúl Guilberto Castro, 地域 CDT 代表</p> <p>(CDT ラウニオン)</p> <p>Mr. Luis Alberto Díaz, CDT ラウニオン代表</p> <p>(CDT コンチャグア)</p> <p>Mr. Alexander Romero Saravia, CDT コンチャグア代表</p> <p>Mr. José Cecilio Ruiz</p> <p>(CDT サンタロサデリマ)</p> <p>Ms. Leily Elizabeth Aguilar, CDT サンタロサデリマ書記官 (Secretaria)</p> <p>Ms. Amada Rosa Vetora</p> <p>(CDT パサキナ)</p> <p>Mr. Pedro Ángel Castro, CDT パサキナ代表</p> <p>Ms. Aida Concepción Tucios</p> <p>(CDT エルカルメン)</p> <p>Ms. Leina Elizabeth Blanco, (CDT エルカルメン代表</p> <p>(CDT ボリバル)</p> <p>Ms. María Auxiliadora Álvarez, CDT ボリバル代表</p> <p>Ms. Elsy Nohemí Hernández</p> <p>(CDT インティプカ : ADESTI)</p> <p>Mr. José Cesar Amaya</p> <p>Mr. Noel Antonio Rivera</p> <p>Mr. Enrique Mendez, インティプカ市長</p> <p>(CDT サンホセデラフエンテ)</p> <p>Mr. Mario Cruz</p> <p>(CDT チリラグア)</p> <p>Mr. Pedro Mazariego, チリラグア市議会議員</p> <p>Mr. Carlos Antonio Medrano</p> <p>Ms. Rubidia Duran M.</p>
出席者	<p>ビンコーインターナショナル(株) 福田（評価分析）</p> <p>三島（通訳）</p>

【各 CDT について（メンバー数と会議の頻度など）】

(CDT チリラグア)

- 昨日（6月18日）に設立されたばかり。メンバーが12人。

(CDT コンチャグア)

- 2007年に設立され、メンバーは30人。2週間に1回会議を行なっている。市街（火山）部と海岸部に分かれている。火山や海岸地域の観光開発に取り組んでいる。

(CDT エルカルメン)

- 2007年8月に設立。メンバーは10人で、2週間に1回会議を行なっている。街のプロモーションや民芸品の作成を行なっている。

(CDT インティプカ)

- 2011年に設立。メンバーは15人で、2週間に1回会議を行なっている。主な活動はマングローブツアーの開発やフェスティバル（市役所主催）の実施支援。

(CDT サンタロサデリマ)

- 2004年に設立。メンバーは9人で、2週間に1回会議を行なっている。観光促進のためのフェスティバルの計画、地図の作成を行なっている。

(CDT ボリバル)

- 2011年8月に設立。メンバーは12人で、月に1回会議をしている。観光客にオファーできるものを作っていきたい。CDTのモチベーションを高めるようにしたい。

(CDT パサキナ)

- 2007年に設立。メンバーは15人で、2週間に1度会議をしている。市役所主催で行なっている“土曜日”の実施支援や学校と環境教育を行なっている。

(CDT サンホセデラフエンテ)

- 2009年に設立。メンバーは12人で、2週間に1度会議をしている。若い人に観光とはどういうものかを教えるような活動がしたい。

(CDT ラウニオン：チキリン支部)

- 2011年からチキリンの住民で集まり始めた。9人のメンバーがいる。フォンセカ湾沿いにある地域なので、ビーチサッカーのイベント実施やビーチの清掃をしている。

【「強化された」委員会とは？】

(CDT サンタロサデリマ)

- 全ての社会的なアクター（市役所、学生、ビジネスをしている人）が参加している委員会のことだと思う。

(CDT チリラグア)

- 観光という共通の目的を持った全ての人に参加できる委員会だと思う。

(CDT コンチャグア)

- 観光開発を推進していくために、必要な研修を受けている人（つまり、幅広い知識を持った人）が集まっている委員会のことだと思う。
- メンバーがゴールを明確に共有していること。それぞれのメンバーが意見を言う権利、他人の意見を聞く権利を持っているということを知っていること。また、知識を得たいという人が集まっていること。

(CDT ラウニオン：チキリン支部)

- 作業計画をきちんと策定し、各メンバーが役割を持っていること。

(CDT パサキナ)

- やる気のある人たちが集まっていること。

(CDT サンホセデラフエンテ)

- 自分たちの考える事を他に伝えることができる団体だと思う。

【委員会が強化されるために必要なものは？】

(CDT サンタロサデリマ)

- 住民が観光を信じる必要があると思う。いろいろな関係機関が観光にコミットしていくことが大事。

(CDT チリラグア)

- ラウニオン県では人々にアイデア（この場合は観光開発の重要性）を根付かせることが大変であると思う。それを克服していくことが大事。

→（地域 CDT が評価団に対してコメント）東部地域は内戦の影響もあり、住民は外部からのアイデアや人たちに不信感でいっぱいだということを知りたい。

(CDT サンホセデラフエンテ)

- まだまだ研修が必要だと思う。研修の数も増えたが、全ての CDTs に実施されていない。しかし、研修で得たものをどう活かしていくは明確ではない。その普及には行政の支援が必要だと思う。

(CDT コンチャグア)

- 研修に必要なことは、①続けること、②各 CDT のニーズを知り、それに沿ったものであること、③ニーズを知るには定期的に会議を行なう事（研修以外の時間でメンバーが集まる）だと思う。
- 各 CDT は自分たちが観光客にオファーしようとしているものを信じなければならないと思う。

(インティプカ市長)

- 委員会強化のためには、活力があるもの（オファーできる観光商品のこと）を投入していくことが重要。また、委員会や地域の強みと弱みを明確にする必要もある。
- 委員会としての活動計画を策定することも重要。そのためには必要な知識を持っている人が CDT のメンバーとして投入されるべきである。

(CDT チリラグア)

- ホテルやレストランのオーナーなどの観光サービスに近い人と会議を持つようにしたい。
- また、観光地となりうる海岸があるので、そこを PR していきたい。

22. ラウニオン市役所

日時	2012年6月20日（水）10:00～11:00
場所	ラウニオン市役所
協力者	Mr. Salvador Ahues, 市議会議員 Mr. Ricardo Antonio Viera, 市議会議員 Mr. Mariano Elit Reves Moreno, 市議会議員 Mr. Fredy Salomon Hernández, 市議会議員 Mr. Miguel Guevara, 市議会議員
出席者	JICA 本部 上田（団長）、松崎（協力計画） ピンコーインターナショナル（株） 福田（評価分析） 三島（通訳）

【観光開発のニーズについて】

- ラウニオン市役所が目指す観光を通じた地域開発と JICA のプロジェクトは整合性がある。先日（6月上旬）に来た（アメリカ海事学校の）船のインパクトは大きかったので、市としても更なる活動をしていきたい。
- 中央政府（国土交通省？）と連携し、良い道路を作ってほしい。ラウニオン市役所が中央政府に依頼しても、意欲があまりないようなので CORSATUR の方からも働きかけてほしい。
- （上田団長）インフラ整備も観光開発に重要なので、理解できる。

【ラウニオン市役所】

- ラウニオン市役所の問題は「コーディネーション不足」というよりも、「資金不足」である。市役所は CDT ラウニオンを支援していく。
- ラウニオン市は JICA のプロジェクトに感謝している。日本のようなすばらしいと今後も協力していきたい。

【市議会メンバーの経歴】

- （上田団長）市議会議員としての仕事以外、何か仕事をしているのか？
- レストランを経営している。
- 不動産の仕事をしている。
- 牧畜や穀物の販売をしている（だったようですが）定年退職しているが、不動産（アパート）を持っている。
- 船などに使用するガラス・ファイバーを作っているのとホテルを所有している。

23. エルカルメン市役所

日時	2012年6月20日 14:30～
場所	エルカルメン市役所
協力者	エルカルメン市長 Mr. Edgardo Zelaya
出席者	JICA 本部 上田（団長）、松崎（協力計画） ピンコーインターナショナル（株） 福田（評価分析） 三島（通訳）

【エルカルメンの観光ニーズ】

- 観光地としてのポテンシャル＝自然資源がある（オロメガ湖）。
- 観光促進の一つのアイデアとして、年末や8月の休暇時期、イースターの時期にフェア（例えば、調理のフェア）をすることもできると思う。
- 実際にオロメガ湖近辺で開発プロジェクトを実施中である。現在は第1フェーズであり、サッカーのコート整備と上水道整備、市場（地元の商人がお店を出せるような空間）の整備に取りかかっている。
- 第2フェーズの内容は検討中。前市長の時に、オルメガ湖付近の開発に関するフィージビリティスタディーが実施され、その調査結果をレビュー中。（例えば、前市長の考えではオルメガ湖付近に高級なレストランの建設があったが、現市長はそうではなく地元の人が商売でき、地元の人たちが便益を受けるように開発したい、など）
- 第1フェーズに係る経費は市当局の予算から捻出されている。第2フェーズは「エルサルバドル開発基金(FIDEL)」に申請する予定。
- オルメガ湖に行く途中にも、3つの沼があるので、湖までのルートとしていくことも考えている。
- 観光開発には、それに関係する全ての人たちが関わっていくことが必要。観光開発に関するプロジェクトが色々あるなかで、外部者によるサービスの提供（前述の地元住民によるレストランではなく外部者による高級なレストランの建設計画など）や公共施設の改善などは言われるが、JICAのプロジェクトのように地域住民に裨益をもたらすことに焦点を当てたプロジェクトは今までなかった。

【民芸品の研修】

- 水葦はその周辺住民にとって、問題であった（水葦の根がはり、水の部分が少なくなる。また、風が吹くと湖一面が葦だらけになる）。なので、これを使って民芸品を作れるとい

うことはとてもうれしいことだ。

【CDT との連携】

- 市と CDT は何らかの関係性を有しているが、現状として連携が構築されているという状況ではない。今後、当地の観光開発を推進していく上で、CDT と連携をしていきたい。

24. エル・カルメン 手工芸・民芸品（水葦）研修フォローアップ

日時	2012年6月20日（水）15:30～16:30
場所	エルカルメン
協力者	Mr. Raúl Guilberto Castro, 地域 CDT 代表
出席者	JICA 本部上田（団長）、松崎（協力計画） ピンコーインターナショナル（株）福田（評価分析） 三島（通訳） プロジェクト専門家チーム 砂田氏（人材育成）

【研修/研修フォローアップ概要】

- （砂田氏）研修のテーマとして「水葦」を使った民芸品というアイデアは CDT から提案されたものであった。
- （砂田氏）今日（6月20日）から3日間、フォローアップ研修中。講師は研修開始時からと同じ講師（エルサルバドル西部地方のデザイナー）。
- （砂田氏）参加者は4人（女性3人、男性1人）。研修開始時は17人いたが、最後まで残ったのは6人だけ。

【研修参加者へのヒアリング結果】

- （福田）どのくらいの頻度で民芸品を作っているのか？⇒（参加者：女性）週末に集まって民芸品を作成している。現在、ラウニオンで販売中（お店のオーナーと交渉して、商品を置いてもらっている。お店から商品入荷を頼まれたら、民芸品の制作にとりかかり、一つ2ドルで販売している。商品は一括買い上げ）
- （参加者：女性）現在、オルメガ湖付近にエルカルメン市役所が建設している市場に民芸品のお店を構える予定である。
- （参加者；女性）研修では、原価や労働量を考慮した価格の設定についても研修した。
- （松崎）この研修を受け、このように民芸品を作ることで、何か変化はあったか⇒（参加者：女性）収入が得られるようになり、変化は感じられる。
- （松崎）今後、みなさんのように収入を得たいと考える人が出てきたらどのように対応するのか⇒（参加者：女性）今後、そのような人が出てきたら仲間として一緒に民芸品を作っていきたい。
- （砂田）研修の呼びかけ等の調整は CDT エルカルメンの代表がしている。また、出席が少

なくなった参加者への働きかけなども CDT の代表が行っているとのこと。

【研修のモニタリングについて】

- 研修後のモニタリングはプロジェクト専門家と CAT ラウニオンのスタッフが行っている。モニタリングの方法は、実地訪問や CDT メンバーが CAT に来たときに状況を聞くなどの方法を取っている

24. 島巡りツアー

日時	2012年6月21日（水）9:00～15:00
場所	島めぐりツアー体験
協力者	Mr. Raúl Guilberto Castro, 地域 CDT 代表 ガイド（漁師2名：マリオ氏とフアン氏）
出席者	JICA 本部 上田（団長）、松崎（協力計画） ピンコーインターナショナル（株） 福田（評価分析） 三島玲子（通訳） プロジェクト専門家チーム 秋山（〇〇）、石川（●●） C/P サンドラ（CAT ラウニオン）

【島めぐりツアーに関して】

（秋山氏）島巡りツアーのガイドは地元漁師たち。ガイドができるようになるため、漁師たちは研修を受けた（→今回ガイドしてくれたマリオ氏によれば、研修はコンフォートイン・ラウニオン（ホテル）で2日間おこなわれたとのこと）。

（秋山氏）現在、島めぐりツアーのガイドができる人は7名いるが、ガイド承認制度はないので「公認」という肩書などは特にない。

- 島めぐりツアーで訪問する島々に上陸する際に必要な栈橋がない。このため、MITUR が栈橋整備の予算を付けた。栈橋整備にかかる調査を CORSATUR、オリエンテ大学 (Universidad de Oriente)、JICA プロジェクトチームと行っている。

【コンチャグィータ島の観光開発プラン（Raul Castro による説明）】

- コンチャグィータ島は静かで、安全な島なので、ホームステイ型（民宿体験型）のツアーを提供できるようにしたい。自分自身、昨年度 JICA の本邦研修（エコツーリズム開発研修）に参加し、ホームステイ型の観光スタイルを体験した。このような体験型のツアーはエルサルバドルにほぼなく、またサンサルバドルの人々は島民の生活に関心があると思うので、このコンチャグィータの売りにしたい。また、体験型ツアーを推進するにも、島民に対する観光サービスに関する意識や知識を教えることが重要と考えている。
- コンチャグィータ島には古い教会があるので、それを目指すトレッキングコースも開発していきたい。上陸したビーチ～古い教会～反対側にあるビーチのコースを歩く道を整備していく（→MITUR による予算がすでについている）。
- JICA の他のプロジェクトで支援している牡蠣の養殖についても、牡蠣の養殖ファームを訪れること自体が体験学習というような観光商品となりうると考えているので、連携のよう

な形をとれたらと考えている。

- 一方で、このような観光開発にあまり期待を持ちすぎない、また他の人たちに期待を持たせすぎないことに留意している。かつて、他ドナーから支援を受けた際に、観光開発への期待値が非常に上がったものの、結局、期待通りの結果が得られず落胆した地域住民は多く居た。よって、現在も、限られた人たちを巻き込んで観光開発を推進している状況である。

25. メアングーラデルゴルフオ市役所

日時	2012年6月21日 11:00～12:00
場所	メアングーラデルゴルフオ市役所
協力者	メアングーラデルゴルフオ市長 Mr. Luis Antonio Dheming Almendariz
出席者	JICA 本部 上田（団長）、松崎（協力計画） ビンコーインターナショナル（株）福田由紀（評価分析） 三島（通訳） C/P サンドラさん（CAT ラウニオン）

【メアングーラデルゴルフオ島の観光ニーズ】

- 2012年4月市長に就任したばかり。前市長は村長の息子が殺されたことを受け、2009年に島から出て行ったので、市長不在後から先日まで市役所として機能していなかった。また、前市長は観光に対して関心がなかった。
- メアングーラ島は観光地としての大きなポテンシャルを持っていると思う。コンチャグイータ島のプロポーザル（ホームステイ型ツアーのこと）を聞いて、ぜひ支援したいと思った。
- 現在、市役所の予算でスペイン政府が建てた、コルサルビーチという場所にあるホステルを再建中。このホステルは2012年8月にオープンする予定。観光のポテンシャルを与えていきたい。

【CDTとの連携】

- 現在、CDTと連携していない。前市長のときにCDTは設立されたと聞いているが、その当時から、特にCDTと市役所は一緒に観光開発を行ってこなかった。
- (サンドラ氏) 以前はCATとして市役所と協力したいと考えて足を運んでも、誰もいなかったり、居ても毎回対応する人が違った。
- (市長) CDTを受け入れ、支援する立場にあるので、協力していきたい。

【メアングーラデルゴルフ島の地域開発】

- 当地における観光開発は、島の人々へ利益があるかどうかが大変重要で、地域が搾取されるような観光開発は求めていない。
- JICA の支援は技術支援だけだが、インフラ整備もしてほしい。明日（6月22日）、メアングーラデルゴルフ島派遣の青年海外協力隊員と一緒に、日本大使館へ行って、下水道整備の支援を依頼する予定である。現在、島には水道がないため、排水する仕組みを作りたい。
- （上田団長）大使館への申請に関するアドバイスとして伝えたいことは、「島の人々の生活を改善する」というような表現を使った方がいい。大使館の支援事業は「草の根支援」なので、あまり「ビジネス」という言葉は使わない方がいい。→（市長）そのように申請をお願いします。
- メアングーラデルゴルフ島はすべての中央政府機関から忘れられている(捨てられている)。島の教育施設には PC もないため、パソコンのクラスもできない。働きたいというやる気のある人が居たとしても、島のビジネスといえば、市役所で勤務することくらいである。なので、観光産業の育成を通じて、いろいろな人にチャンスを拡大していきたい。多くの人が、観光は収入のチャンスということを知らないと思う。
- (Mr. Raul のコメント) 2005 年にラウニオンからホンジュラスへのツアーを実施した。そのとき、メアングーラ島に休憩で立ち寄ったが、島がとても汚かった。結局お手洗い休憩のようなものに終わったが、このような機会を利用して島を整備し観光客が島を訪れ、島にお金落とすようになる仕組みを使ってほしいと思った。
- (市長) 今後、教育機関と協力し、街の清掃や整備（道路に絵を描く）を実施する予定（7月の第1週目に）。また、12月には栈橋を整備し、より現代的なものにしていく。島に到着した時の印象を変えたいと思っている。

26. CP (MITUR/CORSATUR) との協議

日時	2012年6月22日(金) 13:30~
場所	MITUR/CORSATUR
協力者	<ul style="list-style-type: none"> ● Ms. Rita Cartagena, 地域管理課長 ● Mr. Riquelmy Alvarado, CAT/CDT コーディネーター ● Ms. Martha Cristina Morales, プロジェクト投資課長 ● Mr. Manuel García, 観光インフラコーディネーター ● Mr. Roberto Ayala, 観光情報技術者 ● Ms. Elsy Alvarenga, 技術支援スペシャリスト ● Ms. Andrea Muñoz, 環境コーディネーター ● Mr. Héctor Cardoza, 観光商品スペシャリスト ● Ms. Eva Patricia M. Flores, CDT 担当 ● Ms. Sandra Matzumin F. Sanchez, CAT ラウニオン技術者
出席者	<p>JICA 本部 上田 (団長)、松崎 (協力計画)</p> <p>ビンコーインターナショナル (株) 福田 (評価分析)</p> <p>三島玲子 (通訳)</p>

【導入】

(上田団長：以下、団長)

中間レビュー調査の目的は、JICA の評価手法は使うが、プロジェクトの現状を把握し、今後プロジェクト終了時までどのようにプロジェクト活動を進めていくのかを考えることである。本日の目的は調査団からレビュー結果の共有と意見交換を行い、合同評価報告書に取りまとめて、月曜日からのミニッツ協議に向けた準備を行いたいと考えている。

(Ms. Rita)

こちらもその準備はある。月曜日は朝9時から見直しが終わるまで協力するつもりである。

(団長)

こちら(日本側の調査団)で報告書のドラフトを作成するが、合同報告書なので最終的に共同で仕上げたい。これまでの調査(専門家、CDTで得た情報)をもとに、こちらで出した結論をこれから共有したい。

【妥当性の評価結果を受けて】

(Ms. Rita)

妥当性の結論に関しては賛成。政府の政策とも合致しているし、日本の援助政策とも合致して

いる。観光省にも観光開発計画があるので、その点でも合致している。

(団長)CDT の能力強化を通して、観光開発を推進するのは国全体の政策か？

(Ms. Rita)

東部地域において観光開発するにあたって、観光省が CDT を通じて行うことで観光開発に自立発展性を促すもの。東部地域だけに限っているわけではない。全国 262 自治体あり、114 の CDT は観光省によって認定されており、80 の CDT が認定待ちの状態である。

(団長)

‘Pueblos Vivos’ との関係は？

(Ms. Rita)

‘Pueblos Vivos’は MITUR が打ち出している戦略のこと、各地の文化・歴史・習慣を総合して見せていくという戦略。MITUR のプログラムで、地域経済開発や地元の中小・零細企業の活性化にも役立っている。地元の観光関連民間事業者や自治体と協力して取り組んでおり、。研修などを通して能力強化している。

(団長)

MITUR としては ‘Pueblos Vivos’ という戦略に沿った形で、同じような目的を持って本プロジェクトを行っているのだろうと理解した。

(Ms. Rita)

CDT の中には観光開発に関心を持っている人もいるし、技術支援を受けるということを目的で CDT に入っているメンバーもいる。地域の自立発展性のために CDT への支援は重要である。

(Ms.Eva)

ラウニオンのように、ホテルやレストランがある街は活発だが、パサキナのような場所は市役所とその周りの人だけで構成されていると思う。ただ、メンバーに企業主が入っていると活発であり、全員に同じような技術支援を実施している。また、同様に彼らの予定に基づいたプランの策定も行っている。

(団長)

CDT のメンバー構成（質）によって、プロジェクト活動に影響が出てくるのは当然であると理解する。

【有効性の評価結果を受けて】

(Ms. Rita)

カヌーや地図のプロジェクトで恩恵を受けたところもあるが、他のところに教えていくという教訓にしていきたい。中間レビューは、プロジェクトの弱みを見つけ、解決していくためのものである。きちんとして把握したい。

(団長)

オリジナルの PDM が現実に即していないので、PDM を改訂したい。

【効率性の評価結果を受けて】

(Ms. Rita)

C/P の配置状況に関しては、出来るだけのケアをプロジェクトに対してしたいが、出来ない部分がある。CAT ラウニオンの二人は CDT とコンスタントにコミュニケーションを取っていると理解している。プロジェクトの C/P としては、能力の面でも十分な人材を配置したと自負している。観光地図のパイロット・プロジェクトについては、訓練された CORSATUR の職員を配置していたにも拘わらず、CORSATUR からのコメントをプロジェクトチーム側が受け入れてくれなかった部分があったように感じており、我々 C/P 側とプロジェクト専門家チーム側が十分に連携し合意することが望ましいと感じる。たとえば、CORSATUR から、地図に武器を販売しているお店を載せていたので、それはやめて欲しいコメントした。これらの問題は既に話し合いで解決している。

(Ms. Eva)

観光地図については、CDT に対して 2000 部の地図を渡すと約束したので、2000 部渡すようにしたかったが、プロジェクト専門家チームから共有された地図は部数が足りず、今回印刷部数は 1000 部だけであった。これに対し、先日（6 月 19 日）の CDT 会議で配布した時に、CDT メンバーから「なんで 2000 部くれないのか」とクレームを受け困った。コミュニケーションに難ありであったのかもしれないが、約束した部数をきちんと渡してもらいたかった。

(団長)

観光地図のパイロット・プロジェクトは地図を作る過程がとても大事であり、アウトプットとして出来上がる地図自体が大事なのではない。地図作成のプロセス（関係者が一同に会して議論して地図に載せる内容を検討するなど）により、観光委員会が強化される。しかし、地図のコーディネーションの不足は、専門家と CP の信頼関係を損ないかねない大きな問題だと思う。（地図作りの）政策やプロジェクトの進め方に関して話合う必要があると思う。

(Ms. Rita)

地図作成については、そのプロセスが大事だということは理解している。コーディネーションの部分に問題はあったかもしれないが、専門家チームとの信頼関係については大きな問題が生じたとは思わない。ただ、私たちが配置している C/P は専門知識を有している人々であるので、彼らの言うことをもう少し聞いてほしかった。専門家の皆さんは素晴らしいと思うし、信頼関係を損なうことはない。

【インパクトの評価結果を受けて】

(Mr. Riquelmy)

今年（2012年）のイースター休暇に東部地域（フォンセカ湾のビーチなど）に多くの人が観光している。これはプロジェクトのインパクトだと思う。→統計データがあるので、共有してくれる。

(Ms. Andrea? : 観光環境教育の CP)

モデルがどれだけ定着するかについての指標を設定してほしい。ビジネスや観光の動きが分かる指標を設定してほしい。

(団長)

PDMには本当に図れる指標を設定されなければならない。これまで、観光客に関する統計が整備されているかわからなかったが、今観光客に関する統計があるとわかった。また、雇用の指標が現在のPDMにあるが、観光に関する雇用の指標があるかどうか知りたい。もし、雇用の統計がなければ、その指標は使えない。

(Mr. Riquelmy)

雇用の詳しい指標はない。このプロジェクトを通じて、どうやってほかのプロジェクトが成功したかを図る指標を設定したい。このプロジェクトがモデルになるようなものにしてほしい。

(団長)

パイロット・プロジェクトに関しては、このプロジェクトの実施によりどれくらいの雇用が増えたかを図ることができると思う。他方、観光客が増えるという指標は、プロジェクトによる効果だけでなくその他の要因も考えられる。このプロジェクトで確立されるモデルがどれだけ効果的かを図る指標は必要で、雇用以外にこれらを図る指標があれば、教えてほしい。

(Mr. Riquelmy)

地域の収入。しかし、それを定量化するには観光業者などに対して個人の収益を調査するということになるので、情報を収集するのは難しい（図りづらい）。また、会計的な情報（課税と関係してくる情報）になるので、全員が全員正確な収入を申告するかどうかは分からない。エルサルバドルは日本と同じ文化を持っていないため、彼らがいくら稼いでいるかを図るのは難しい。

(団長)

「他地域に広がる」ということも、CDTの能力強化による裨益を図る指標になるのではないかと。地域の人々が参加したいと思うということは、何らかの正の効果プロジェクトによって発現したことであるだろう。

(CORSATUR 側)

設計された観光パッケージの売り上げも指標となるのではないだろうか。7月6日、7日にフェ

リア（民間企業と連携して行う 8 月の休暇に向けた観光エキスポ：中央アメリカレベル）があり、その場にラウニオンの観光をプレゼンできると思う。その場でツアーを売ることができる。

(CORSATUR 側)

長期的な観点から見た指標のお設定も重要ではないか。例えば、従事している仕事の収入の変化や、観光業に従事する会社が増えなど。今までは「雇用が増える」と聞くと、観光業社の会社数が増えたということで単純に雇用が増えるということではないと考えていたが、それも観光による裨益として図るのは当然であると分かったので、その指標もいいと思う。

(MsEva)

正のインパクトである船の来泊については、前もって準備していたことで、地域 CDT が対応できたと思う。雇用の創出という点では、正式の雇用ではないが、若い人が民芸品を作る組合を組織し、実際収入を得ているので、それも正のインパクトと言えると思う。

(CORSATUR 側)

雇用だけでなく、みんなが集まって仕事をするという行為自体も評価される部分だと思う。

(団長) 観光客へのアンケートを実施しているか

(Mr. Riquelmy)

休暇の時期には調査している。しかし、ホテルの宿泊数の調査を行っても、正直に宿泊数を述べるとそのホテルの収入の概算が計算できてしまうので、正確なデータが出てこない。また、国境地帯や観光客が多く来る場所には情報局があり、情報局がアンケートを行っているが、サンプル数が少ない。セクター別情報局があるが、東部地域だけでなく、全体の統計（入管の情報など）を取っている。CORSATUR 自身がフォンセカ湾での調査をすることは大切だと感じた。

(団長) 観光に関する調査は、プロジェクト終了後にもとても大切だとおもう。

(CORSATUR 側)

観光環境教育は全国に展開していきたいという考えを環境大臣が持っている。

【持続性の評価結果を受けて】

(Ms. Rita)

今後、地域 CDT をもっと強化する予定。この地域 CDT が他の CDT に普及活動を行う。地域 CDT が学んだことを横展開していくことが大事である。各 CDT についていえば、いろいろな人が参加し、街を identify していることはとても重要である。CORSATUR からの教訓としては、パイロット・プロジェクトの策定の時のように、プロジェクトの計画立案時点で PDM を作成するときにも CDT メンバーを加え参加型にしたほうが良かったことを挙げたい。

(団長)

市長の交代で CDT メンバーが変わるということが起こらないような仕組みができるような提言

をいれたいが、どのようにすればよいか。

(Ms. Rita)

CDT の定款があり、メンバーが変わらないというルールがある。市長が交代しても、メンバーが交代しないようにしている。2年に一度、メンバーを選ぶことができる。

(団長)

そのようなルールがあっても、CDT メンバーが実際変わっているがどうということか？

(Ms. Rita)

市長が変わっても変わるメンバーは市役所の職員だけである。もし、政治的な CDT があれば、MITUR/CORSATUR が説明に行く。

(評価団)

法人化された CDT の税金滞納問題は CDT の活動に影響しないか？

(Ms. Rita)

私たちの CDT にはそういう問題はない。法人化には 2 つあり、1 つは法務局による法人化されている CDT (つまり、観光委員会) で、もう一つは私たちの管轄にある CDT である。前者の CDT にはそのような問題はあると認識している。

Project Design Matrix (PDM)

プロジェクト名: エルサルバドル国東部地域観光開発能力強化プロジェクト

プロジェクト実施期間: 3年間 (2010年8月～2013年7月)

Ver. 2 (2012年6月27日)

対象地域: 東部地域 (パイロットプロジェクト地域: CAT La Uniónが現在管轄している13市)

ターゲットグループ: MITUR/CORSATUR職員、パイロットプロジェクト地域の観光委員会/観光協会員

スーパーゴール: 首都及び地方における経済格差が軽減する。

プロジェクト概要	指標	指標入手手段	外部条件
上位目標 東部地域において地域特有の資源を活かしたコミュニティ・ツーリズムが確立される。	<ol style="list-style-type: none"> 東部地域において地域コミュニティが主体となって開発された観光商品が増加する。 東部地域の観光セクターの雇用が増加する。 	<ol style="list-style-type: none"> CORSATURと観光委員会/観光協会による報告書 CORSATURによる観光関連統計 中央銀行による経済統計 経済省による統計 観光業者団体による統計など 	
プロジェクト目標 東部地域において地域コミュニティに裨益する官民連携による持続可能な観光開発の体制を構築する。	<ol style="list-style-type: none"> 観光委員会/観光協会の役割と位置づけを明文化する。 開発されたモデル (JICA La Unión Model) が標準モデルとして CORSATURに承認される。 パイロットプロジェクト地域の一部の地域においては観光セクターの雇用が増加する。 	<ol style="list-style-type: none"> CORSATURと観光委員会/観光協会による報告書 CORSATURの公式文書 CORSATURによる観光関連統計 中央銀行による経済統計 経済省による統計 観光業者団体による統計など 	<ul style="list-style-type: none"> - 観光委員会/観光協会の能力強化に係る政府の政策が継続する。 - 治安や公衆衛生状況が悪化しない。 - 訓練を受けたカウンターパートが働き続ける。
成果			
1 東部地域の観光開発の方向性が導き出される。(ガイドライン)	<ol style="list-style-type: none"> 1-1 観光開発や観光機関にかかる現状報告書が作成される。 1-2 観光資源調査報告書が作成される。 1-3 住民参加型観光開発に関するガイドライン案が作成される。 	<ol style="list-style-type: none"> 1-1 作成された報告書 1-2 作成された報告書 1-3 作成されたガイドライン案 	<ul style="list-style-type: none"> - 中央政府が東部地域における観光開発の重要性を維持する。
2 パイロットプロジェクト地域におけるパイロットプロジェクト実施を通じて地域独自の資源を活用した観光開発に係る知識が向上する。	<ol style="list-style-type: none"> 2-1 パイロットプロジェクトの選定基準・指針が策定される。 2-2 パイロットプロジェクト地域において少なくとも5つのパイロットプロジェクトが実施される。 2-3 パイロットプロジェクト活動から導き出された教訓を含んだモニタリング・評価報告書が作成される。 2-4 パイロットプロジェクト実施に係る観光委員会/観光協会のメンバーの半分以上において観光開発に対する意識や行動に変化がみられる。 	<ol style="list-style-type: none"> 2-1 プロジェクト進捗報告書 2-2 プロジェクト進捗報告書 2-3 プロジェクト進捗報告書 2-4 観光委員会/観光協会のパイロットプロジェクトに対する知識・意識調査プロジェクト進捗報告書 	
3 パイロットプロジェクト地域の観光委員会/観光協会*の能力が向上する。(観光委員会と観光協会の能力強化)	<ol style="list-style-type: none"> 3-1 パイロットプロジェクト地域におけるすべての観光委員会/観光協会にてニーズに基づく研修が最低1研修実施される。 3-2 少なくとも6つの観光委員会/観光協会において規約もしくは定款が作成・改善される。 3-3 少なくとも6つの観光委員会/観光協会において関係機関情報共有のための定期会議が月例で開催される。 	<ol style="list-style-type: none"> 3-1 プロジェクト進捗報告書 プロジェクトによる研修記録 3-2 作成された活動規約 3-3 プロジェクト進捗報告書 観光委員会/観光協会による会議記録 	

	<p>3-4 少なくとも8つの観光委員会/観光協会においては観光開発に関するコンセプトが作成される。</p> <p>3-5 少なくとも8つの観光委員会/観光協会においては最低一つの提案書が作成される。</p>	<p>3-4 観光開発コンセプト(が示された書類)</p> <p>3-5 観光委員会/観光協会が作成した提案書</p>	
4 MITUR及びCORSATURにおけるパイロットプロジェクト地域の観光委員会/観光協会支援能力が向上する(MITUR/CORSATUR能力強化)	<p>4-1 CORSATURと観光委員会/観光協会の定期会議が少なくとも月に1回開催される。</p> <p>4-2 CORSATURが主体的に管理・運営する観光委員会/観光協会のための研修・セミナーが10回以上開催される。</p> <p>4-3 パイロットプロジェクト地域においてプロジェクト開始段階で法人格を持たなかった8つの観光委員会のうち3つが法人化される。</p>	<p>4-1 プロジェクト進捗報告書 会議記録</p> <p>4-2 研修・セミナー参加者リスト</p> <p>4-3 法人登録書類</p>	
5 観光委員会/観光協会の活動モデルが開発され、東部地域に普及される。(モデルの開発と普及)	<p>5-1 ガイドラインを含む、プロジェクトの教訓を基にしたモデルが開発される。</p> <p>5-2 モデル普及のためのセミナーが少なくとも4回開催される。</p>	<p>5-1 開発されたモデル(文書)</p> <p>5-2 セミナー記録</p>	
活動	エルサルバドル側投入	日本側投入	
<p>1-1 東部地域における観光開発に関する現状調査を行う。</p> <p>1-2 東部地域におけるポテンシャルの高いエリアの分析を行う。</p> <p>1-3 参加型で東部地域における観光開発の指針案を策定する。</p>	<p>1. 人員</p> <p>1) プロジェクトダイレクター</p> <p>2) プロジェクトマネージャー</p> <p>3) プロジェクトコーディネーター</p> <p>4) 3名 カウンターパート</p> <p>5) 7名 パイロットプロジェクト担当者</p>	<p>1. 人員</p> <p>(1) 総括/組織間調整1</p> <p>(2) 副総括/観光開発1/コミュニティ開発2</p> <p>(3) 観光開発2</p> <p>(4) 組織間調整2</p> <p>(5) 観光プロモーション</p> <p>(6) 人材育成</p>	<p>- 地域コミュニティがプロジェクトに協力する。</p> <p>- 専門家とカウンターパートの投入計画が大きく変更されない。</p> <p>- 2012年の地方選挙結果が、対象となる観光委員会/観光協会の委員構成に深刻な影響を及ぼさない。</p>
<p>2-1 観光委員会/観光協会との協議のもと、CORSATURの調整によりパイロット・プロジェクトの選定基準を作成する。</p> <p>2-2 パイロット・プロジェクトを選定し、実施する。</p> <p>2-3 パイロット・プロジェクト活動のモニタリング・評価を実施し、教訓を導き出す。</p>	<p>2. 機材</p> <p>1) 本プロジェクトに必要な機材</p>	<p>2. 機材</p> <p>(1) 4WD 車両</p> <p>(2) 5 ラップトップ・コンピューター</p> <p>(3) 2 プロジェクター</p> <p>(4) 2 スクリーン</p> <p>(5) 1 コピー機</p> <p>(6) 1 レーザープリンター</p> <p>(7) 1 インクジェットプリンター</p>	
<p>3-1 観光委員会/観光協会やその関係者の研修ニーズを調査し、研修を実施する。</p> <p>3-2 各観光委員会や観光協会において規則や定款の作成もしくは改善を行う。</p> <p>3-3 大学や、NGO、観光業者、行政機関などの関連機関と観光委員会/観光協会のネットワークを強化する。</p> <p>3-4 観光委員会/観光協会相互の交流(第三国研修を含む)を強化する。</p> <p>3-5 関係する観光委員会/観光協会ごとに観光開発に関するコンセプトを作成する。</p> <p>3-6 観光委員会/観光委員会のドナー機関やNGOに対する資金協力を含む支援依頼にかかるプロポーザル作成能力を強化する。</p>	<p>3. ファシリティー</p> <p>1) プロジェクトオフィス</p> <p>2) パイロットプロジェクト実施に必要な土地建物</p>	<p>3. 資金</p> <p>パイロットプロジェクトにかかる費用</p>	前提条件
<p>4-1 MITUR及びCORSATURの、観光委員会/観光協会とのコミュニケーション能力を強化する。</p> <p>4-2 MITUR及びCORSATURによる、他ドナーやNGOからの資金提供を受けるために必要な観光委員会/観光協会のプロポーザル作成及びプロジェクトの企画・運営等の能力強化にかかる支援を実施する。(本邦研修を含む)</p> <p>4-3 MITUR及びCORSATURは、パイロットプロジェクト地域において法人格を持たない観光委員会の法人化を行う。</p>	<p>4. 本プロジェクト活動のためのローカルコスト</p>	<p>4. カウンターパート研修</p> <p>JICAは、本プロジェクトに関係したエルサルバドル人職員を、本邦研修および第三国研修にて受け入れる。</p>	<p>- 観光委員会/観光協会、地方自治体からプロジェクトへの理解が得られる。</p>
<p>5-1 成果1から4を通じて、観光委員会/観光協会能力強化のための提言をまとめ、モデルを構築する。</p> <p>5-2 東部地域に対してモデル普及のためのセミナーを開催する。</p>			

*「観光委員会」とはMITUR/CORSATURによって承認された、地域の観光活動のために組織化された地域の代表者グループ。

「観光協会」とは、上記「観光委員会」が法人化された組織のことを示す。

